



日産合成工業株式会社 メールマガジン

2015・04・13 第100号



ついに 100 号です。

日産合成工業株式会社のメールマガジンが 100 号になりました。2006 年 07 月 26 日に第 1 号を発信して以来、専属でもない素人が原稿を作成し、手探りで運営してまいりましたが、これまで続けられましたことは、読者の皆様のご支援の賜物と心から感謝いたしております。本当にありがとうございます。そしてよくても悪くても 100 号は一つの節目と思います。これを機に当社のメールマガジンに対する忌憚のないご意見をお寄せ下さいますようお願いいたします。

自宅近くの遊歩道に、一本の枝に紅梅と白梅を咲かせる梅の木があります。普通、梅の開花は紅梅が早くて白梅が遅れるものですが、この枝では同時に開花します。今年も同時に開花しました。紅白の花でこのメルマガ 100 号を祝ってくれていると勝手に思い、写真を撮ってきました(写真上)。

この時期は 1 月の蠟梅から始まり、寒咲きナノハナ、梅、蘭、花桃、桜、水仙、チューリップ、藤、芝桜、つつじ、ネモフィラなど春から初夏の花が一斉に咲きだし、花見に忙しくなります。この時期にだけ出会えるフラワーリレー、フラワリング(flowering)の始まりです。



つくばでも 1 月上旬にはその第一陣の「蠟梅」、次いで「筑波山梅まつり」、「つくば蘭展」が続いて開催されます。これについては本メルマガで何度か紹介しております。

この時期のもう一つの楽しみは、国立科学博物館筑波実験植物園の「みごろの植物、今週のベスト5」という情報です。野生種を含めて数多くの植物を管理している筑波実験植物園ですので、思わぬ発見があります。今年もこの情報に誘われて行ってきました。

3月下旬現在の「みごろの植物」1位はアンズの園芸品種(写真下)で、淡くけむるようなピンクの花が満開でした。2位のハクモクレンは白い大ぶりの花が見ごたえ十分でした。3位はカタクリで落ち葉の中から葉を広げ、可憐な花を咲かせていました。4位以下は省略しますが、いずれも「春がきたぞ!!」という強いメッセージが聞こえるようでした。



今年も春になりました。入学、就職、卒業、引退、旅立ちなどそれぞれの新しい人生の幕開けの季節です。日産合成工業株式会社(のメールマガジン)も頑張ります。よろしくお願いいたします。

さて、前置きが長くなりましたが、ニッサンメールマガジン第 100 号をお届けします。

値上げの春

今年の 4 月は食品の値上げラッシュです。ネスレ日本がインスタントコーヒーを約 20%、サントリーが(筆者が大好きな)ウイスキーを約 20%、日清が食用油を約 12%とさまざまな食品が値上げされます。鶏のから揚げでウイスキーのオンザロックを飲み、酔いざめにコーヒーを飲んだら、小遣いが無くなってしまわないでしょうか。いずれも原材料の高騰および円安を要因としています。

そして、牛乳・乳製品も小売価格を値上げします。これは飼料価格の高騰などによる生乳価格の上昇を反映した値上げと報道されていますが、大手乳業メーカーは値上げのもう一つの理由として乳価を上げて酪農生産基盤の回復・強化を図り、国産牛乳・乳製品市場の安定的な発展を期すことを挙げています。小売価格を上げることが原料を供給する生産者の基盤強化につながっていくということが、どれだけ末端の消費者の理解が得られるかわかりませんが、効果のほどがわかりませんが生乳生産側としては静観せざるを得ません。

値上げに理解求める

4 月からの牛乳・乳製品の値上げに対して消費への影響を少なくするために、Jミルクは、今年の牛乳の日(6 月 1 日)と牛乳月間(6 月)に向けた酪農・乳業の取り組み方針を決定して、臨時総会終了後の記者会見で説明しました

今年は新たに FAO(国連食糧農業機関)が提唱している 6 月 1 日の「世界牛乳の日」と連携した活動やメディア広報を展開します。活動内容はポスター・リーフレットを制作、全国の小学生から牛乳をテーマにイラストを募集する「牛乳ヒーロー・ヒロインコンクール」など活動は例年通りに行います。

乳の学術連合との共催行事である記念学術フォーラムは 5 月 30 日(土)に、東京・丸の内での東京国際フォーラムで開催されます。テーマは「いま一度、『乳』を考える！」で、

- ① ひととは、どのようにして、ミルクの利用を始めたのか?～ミルク利用の起源(帯広畜産大学・平田昌弘氏)
- ② 何故、日本人は牛乳が飲めるのか?～乳糖不耐の真相(東北大学・齋藤忠夫氏)
- ③ ミルクへの誤解、その特徴と対策(人間総合科学大学・桑田 有氏)

の 3 題の講演が行われる予定です。

農業経営統計調査 平成 25 年版

農水省はこのほど平成 25 年の個別経営の営農類型別経営統計(経営収支)を公表しました。いうまでもありませんが、この調査は、世帯による農業経営を行う農業経営体(いわゆる家族経営)を対象としており、組織法人や集落営農などの組織経営は除かれています。この報告のうち酪農経営では、個別経営体約 1 万 9 千戸すべてを調査したわけではなく、このうち約 1.85% に当たる 359 戸を抽出して調査した標本調査です。その結果、酪農経営(全国)の 1 経営体当たり農業粗収益は 4,634 万円、農業経営費は 3,884 万円、農業粗収益から農業経営費を差し引いた農業所得は 750 万円でした。一般のサラリーマンの皆さんにとって、この所得はかなり意味がある金額だと思いますがいかがでしょうか。

ちなみに累年データを見ると最近 10 年間では平成 12 年の農業所得が 802 万円でしたが、同 20 年には 419 万円に低下しています。為替相場や世界的な気象条件により所得が変動しやすいことが明らかです。

詳細は下記をご覧ください。

http://www.maff.go.jp/j/tokei/sokuhou/kobetu_tikusan_13/index.html

日本畜産学会第 119 回大会および関連研究会

日本畜産学会第 119 回大会(宇都宮大会)が下記の通り開催されました。

日 時：2015 年 3 月 27 (金)～30 日 (月)

開催地：宇都宮大学峰キャンパス(〒321-8505 栃木県宇都宮市峰町 350)

本学会で報告された演題のうち当社が関係していたものは次の二つです。傍聴しました。

I 28-09 ラクトフェリン給与による乳牛のルーメン内エンドトキシン活性の上昇抑制

I 29-16 暑熱期分娩乳牛へのアスタキサンチンの給与効果

また、関連研究会等として下記の研究会に出席しました。

第 75 回 飼料懇談会

日 時：2015 年 3 月 27 日（金）10：00～12：00

テーマ：「家畜・家禽の飼料の機能性について」

第 47 回 ルーメン研究会

日 時：2015 年 3 月 27 日（金）13：00～17：00

テーマ「家畜の生産性向上における動物薬の役割とその代替の可能性を探る」

畜産学会第 119 回大会の講演要旨、第 75 回飼料懇談会講演要旨および第 47 回ルーメン研究会講演要旨は当社に保存してあります。必要であればお問い合わせください。

酪農・豆知識 第 98 号の概要および URL

上記の日本畜産学会第 119 回大会および関連研究会に関連して当社もいくつかの研究課題をお手伝いさせていただいておりましたので、出席しました。大きな学会ですので、すべてを網羅することはできませんが、弊社に関連する課題および時期的に興味のあった課題について、弊社が傍聴した範囲ですがその概要を、「酪農・豆知識」第 98 号にまとめてあります。

「酪農・豆知識」は、[当社のウェブサイト](#) のトップページにある「技術情報」をクリックし、

「酪農・豆知識」のページに入るとご覧になれます。ぜひご利用ください。

- メールマガジンの配信も [当社のウェブサイト](#) から登録できます。
- このメールマガジンへのお問い合わせ、ご意見・ご要望等、並びに技術的な問題等がございましたら、[当社のウェブサイト](#) のトップページにある「お問い合わせ」のページをご利用ください。

お知らせ アドレス変更をお忘れなく

----- この mail を受信されている方に -----

人事異動、転退職等でメールアドレスが変更になった場合で、引き続き日産合成工業株式会社のメールマガジンの配信を希望される方は、旧アドレスと新アドレス及び新所属等を当社のウェブサイトのトップページにある「お問い合わせ」のページを利用してお知らせください。

配信できなくなったアドレスは、メーリングリストから自動的に削除しておりますので、よろしくお願ひします。

また、今後の配信が不要な場合にも [当社のウェブサイト](#) のトップページにある「お問い合わせ」のページを利用してお知らせください。